



令和 8 年度 国語科実践・研究計画

部 員 ○鎌田佳佑 工藤優花 石井知徳

I 国語科における 自律した学習者の姿

- 1 自分に適した学びの道筋を選択し、進んで学びに向かいながら、言葉の力を高めている姿
- 2 根拠を基に自らの解釈や表現を吟味し、よりよいものにしていく姿
- 3 問いの積み重ねを基に、言葉に関する選択・決定を省察する姿

II 国語科における 授業デザインの取組

- A 個々の子どもに応じた学習材の提示や学習展開の工夫ができるように、授業の内外で子どもの姿を的確に見取る。
- B 自らの解釈や表現に対して、その解釈・表現に至った根拠をもって学びに向かうことができるような学習活動の工夫をする。
- C 自身の振り返りや、仲間と関わって得たことを基に、自分の考えはどのように変わったのか、問い直す場を設ける。

III 1・2 年次研究で生成した仮説

	問題解決に没頭する子どもの姿 (数字は、自律した学習者との関連)	要因・手立て (英字は、授業デザインの取組との関連)
一 年 次	他の児童の役割演技を自分の役割演技と比較して、同じ教材文を読んでも、なぜ違う動きをしているのかを考えている姿 (1、2)	役割演技の解釈の在り方を紹介し合っ て、根拠となる叙述について、その妥当 性を検討したり、新たな解釈を練ったり する時間を設定したこと (A、B)
	十七音で自分の気持ちを伝えるた めに、よりよい言葉はないか表現を吟 味する姿 (2、3)	一般的な知識ではなく、句会を通して 子どもたちがよいと感じた俳句を取り上 げ、共通点を「よい俳句の条件」として まとめたこと (A、B)
	どの本が主人公の心を動かすかに 重点を置き、主人公への願いを語りな がら自分の在り方を見つめ直す姿 (1、3)	自分と物語を関わらせながら読むこと ができるように「主人公におすすめの一 冊を選ぶ」という学習活動を設定したこ と (B、C)
二 年 次		

IV 1 年次研究の課題と、改善するための手立て

	課題となった子どもの姿 (数字は、自律した学習者との関連)	改善するための手立て (英字は、授業デザインの取組との関連)
一 年 次	役割演技や句会、選書などの言語活 動に取り組んでいるが、考えが深まら ない姿 (2、3)	取り扱う言語活動について、子どもた ちの学習活動の中にどのような目的で位 置付けられているのか、どれだけ有効な 手段であるのかを子どもたち自身が理解 できるようにする。(A、B、C) 何度も文章を読み返す必要感のある活 動を設定する。(A、B)